



〈インタビュー〉水野翠さんに聞く	p. 1
体験会・交流会 / 展示 / お知らせ / 子ども向けイベント	p. 2 ~ 3
@Libミニブックリスト 番外編 「今年の3冊～児童書・ティーンズ編～」	p. 4
ぐるっとYOKOHAMA図書館めぐり 第7回 港南図書館	p. 4
ホームページ <a href="http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/library/">http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/library/</a>	

2009年12月

## 《インタビュー》 水野翠さん（画家、絵本作家）に聞く

Q. 絵本を作るようになったきっかけは、どのようなことですか。

A. 美術大生だったころから、絵本はぜひ作りたいと思っていました。ただ、一年おきに個展を開き、団体展にも毎年出品するとなると絵の制作だけで忙しく、なかなか絵本づくりに取りかかることができませんでした。でも10年前からようやく絵本作りができるようになりました。

Q. みつあみとか、雨の終わるところを見ようとか、水野さんの絵本のアイデアはどこからわいてくるのでしょうか。

A. アイデアは頭の中にいっぱいあります。『みつあみみつあみ』は、柳の枝が風に揺れるのを見て、「これをみつあみにしたらおもしろいだろうな。長いもの、そう、ゾウの鼻とか、ネコのしっぽとか、みつあみにしたらどうだろう...。」と思ったのがきっかけになりました。

Q. 『うまさんうまとび』はことばがリズムカルで、『あめのむこう』も登場する動物の名前がしりとりになっています。水野さんの絵本はことばも楽しいですね。

A. そう言ってくださると嬉しいです。視覚で遊ぶだけでなく、言葉で遊ぶのも好きなんです。物語を書くのも好きで、20年くらい前から書き始めていました。絵も文章も自分で書くのでストレスが少ないです。



「『あめのむこう』の続編が、順調に行けば2年後くらいに出るかもしれません。」(水野さん・談)

Q. ふだんはどんな作品を描かれるのでしょうか。

A. 半抽象の絵を描いています。生命への思い、環境汚染への不安など、以前はことばで表すよりも絵で表そうと思っていました。でも物語を書くようになり、ことばで表現できることは言葉でと思うようになったので、絵は絵として純粋に描いています。来年の4月には、久しぶりに個展を開きます。

Q. 最後に、絵本の読み手の子どもたちにメッセージがあればお聞かせください。

A. これからも自分が楽しい、おもしろい、遊び心ある絵本を作っていきたい。子どもたちには、それを見て視覚で遊び、読んで言葉で遊んで、自分でもお話を作りながら、楽しい時間を過ごしてもらえればいいなと思います。



左奥 『みつあみみつあみ』 小峰書店  
右奥 『うまさんうまとび』 小峰書店  
手前 『あめのむこう』 福音館書店

(緑図書館より)

お話を伺って、もう一度水野さんの絵本をじっくり読み直してみたいと思いました。絵もことばも楽しい水野さんの絵本。次の作品を期待してお待ちしたいと思います。すてきなお話をありがとうございました。

水野翠(みずのみどり)氏

画家(油彩)、絵本作家。

東京生まれ。横浜市在住。東京芸術大学油画専攻卒業、同大学院修了。モダンアート協会会員、日本美術家連盟会員。個展、所属団体展等で作品を発表するとともに、近年は絵本づくりに情熱を注いでいる。